

ソフトウェア基礎・応用論文特集の発行にあたって



ソフトウェア基礎・応用論文特集編集委員会

委員長 中島 震

私たちの日常生活を支える社会基盤がソフトウェア化すると共に、ソフトウェア・システムの高信頼化への関心が高まっている。コンピュータといえばメインフレームの大型計算機であった時代は遠の昔であり、今では身の回り至る所に、様々な姿形をしたコンピュータが存在する。この流れは留まることを知らず、従来はソフトウェアとの関わりが薄かった応用分野にもソフトウェアが浸透しつつある。様々な応用分野がソフトウェア化していくということは、当該分野の専門家がソフトウェア開発に関わることである。必ずしもソフトウェアの専門家ではない。一方、ソフトウェアは目にすることができず、自然法則に支配されるわけでもない。このような特徴をもつソフトウェアについての科学的な成果を、わかりやすい技術に結実させることが求められている。

本特集では、ソフトウェア開発に関わる技術について、科学的な知見に基づく最新の研究成果を、広く共有することを目的として、論文を公募した。御投稿頂いた通常論文13編、レター1編、に対して、厳正な査読を行った結果、通常論文6編、レター1編の計7編の

論文が採択された。

これらの採録論文7編は、ソフトウェア開発の様々な側面に関わる。開発の上流工程を支援する要求工学及びパターンに関する技術、開発工程をまたがるトレーサビリティに関する技術、ソースプログラムの解析や管理に関わる技術、プログラム自動検証の技術など、多岐にわたる。いずれも、大規模化するソフトウェアの開発を支える基礎的な研究の成果であり、産業界での実適用が期待される重要な技術といえる。

最後に、本特集の企画から発行にあたって、興味ある研究成果をお寄せ下さった投稿者の皆様、ご多忙な中、論文査読に協力して下さいました査読委員の方々、企画と編集に御尽力頂いた編集委員と幹事各位、ならびに計画通りの特集発行に向けて御支援を頂いた学会事務局の方々に、深くお礼を申し上げます。

なかじま しん
中島 震 1981東京大学大学院修士課程修了。2000学術博士（東京大学）。2004より国立情報学研究所教授。2005より総合研究大学院大学教授（併任）。2012より東京工業大学大学院連携教授。ソフトウェアの高信頼化、自動検証などに興味をもつ。2003日本ソフトウェア科学会論文賞受賞。本会SS研委員長。

ソフトウェア基礎・応用論文特集編集委員会

委員長	中島 震
幹事	岡野 浩三・高田 喜朗
委員	阿萬 裕久・桑原 寛明・小林 隆志・関 浩之
	中田 明夫・中西 恒夫・中村 匡秀・肥後 芳樹
	結 縁 祥治・鷺崎 弘宜